工職夫と一團となり各工場に入らんとする職工等に怠業を勸告し中には鋼片もしくば棒片を以て脅迫行爲に出でた者もある之等は何れも物々しく所内を警戒中なる警官及憲兵等に依つて逮捕せられた爲取締のため各工場毎に十數名の警官を配置して警戒を嚴にした兎に角所内外の物情は洶々として不安の裡に漂つて居る

始業

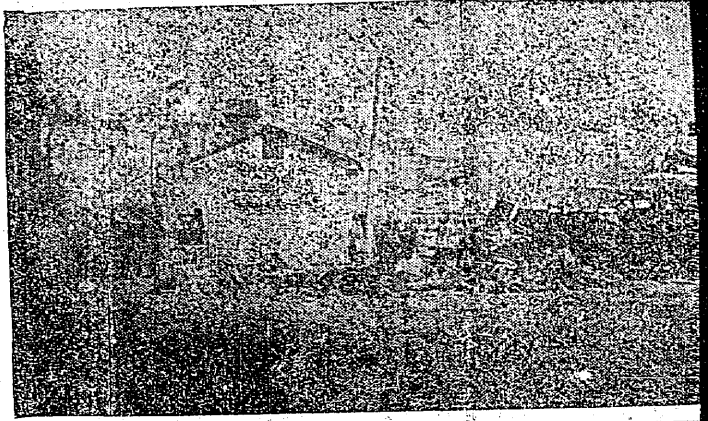
六日の職工職夫入所歩合は平日に比し減少の傾向有り缺勤者は主として勞友會員で人夫の命令數五千四百二十九人に對し四千百九十三名であつた修繕工場[illegible]山瓦斯鑛前田煉瓦工場等は今尚危險状態に在り安全の作業が出來ぬ

警察側は續々危險人物を引致し

職工中個々作業する者あるも皆腰浮き腰の態である構内の人氣は非常に緊張し熔鑛爐原料工場中央瓦斯鑛運輸、坩堝、外輪、鋼丸、ロール、鍛鋼、電氣、砲彈、煉瓦、ボールト、鑄物、工作、第二中型、製鋼掘付等の各工場は勞友會員多きを以て警戒一層嚴重にして突然戒嚴令を布かれたる觀がある猶八幡驛には六百五十六輛の貨車有り同日午後より漸々作業を開始せんとしたが何處とも知れず怪しき者十數名來つて機關車の番號を手帳に控へながら一寸睨んだので乘

組の職工は之を怖れて運轉を中止し

た故に五十六輛の貨車は其まゝ立往生となつた製鐵所にては日々鐵道院の手を經て炭車四百餘輛に小倉鐵道より石灰石三百噸石炭三百噸を搬入しつゝあるが大罷業で同時運轉中止命令出で目下百餘輛の貨車停滯を來し其他各驛にも相當の停車をして居る



争議の調停に
友愛會起つ
友愛會の田崎理事を擁立して重大なる罷業の一齣を演ぜん

縷々として上る幽かな煙

決定如何が見物である

八幡製鐵所は今猶ほ不穩の裡に置かれて居る、職工勃發の翌六日朝中央瓦斯部及び溶鑛爐の煙突から煙は上つた。但し絕ない程度に縷々として上つたこれは勝しい警官隊が工場に繰り込んで死ごく火夫一人に附添ひ一人が附き添ふ位に

して彼を煥かしたからであつた然し瓦斯部を除いた以外の各仕上工場修繕工場等に於ては巧妙なる怠業状態を持續し中には就業を迫つた工場の組長が袋叩きに會つた事件等もあつた大體に於て要求に對する決答時期たる七日午後六時となる迄は如上の状態を以て推移し

其の決答の如何に依つて運動は如何とも變化す

喊聲を擧げて一大示威運動

死力を盡して鎭撫す

六日夜八時四十分頃中央瓦斯部より一大喊聲起り如何なる大事を惹起するかと市民が不安を感じた矢先、停車場通り本町二丁目筋南門附近に密集した

勞働者の大群集は之に應じて之に數倍する大喊聲を揚げ內外呼應して示威運動に

着手したが騎馬憲兵三十及び自働車に搭乘せる警官隊の死力を盡した活動に依りて一時沈靜するに到

を煽動し人心洶々たる一方、製鐵所職工の感情は漸次惡化しつゝある形跡を認める

▲物々しき官憲の警戒振り

警察に對する官憲の取締は嚴を極むめた事件勃發以來八幡小倉門司若松各署は全主力を傾注して居る事は勿論七日朝迄には久留米署より四十五名大牟田署より三十一名福岡署より八十五名縣保安課より刑事四名直方行橋其他各署より多數の警官隊來援し五日より來幡中なる縣警察部長の指揮の下に晝夜兼行の大々的警戒を行ひ八幡折尾間の要所々々に八十名の角袖巡査を配備して嚴戒に力むる等製鐵所の內外を通じて殆んど警察力總動員の形である之がため一般の耳目

を[illegible]集團は容易に解散せず南門より東門附近に於て大喊聲を擧げ一般の心膽を寒からしめた

▲官憲對勞働者問題に開展か

友愛會緩和策で決定主謀者と認められた日本勞友會の幹部は其後も續々檢束拘引せられ七日朝迄に五十一名を數へた。中には理由薄弱な者もあるが取調べ進捗につれ猶續々被檢束者を出すかも知れぬ、然るに勞働者

對製鐵所の争議は警察の干渉壓迫に依つて官憲對勞働者の問題となり兼まじき形勢を示すに到つたので八幡に

於ける同じ勞働團體なる友愛會支部

今度大盟罷の手當(これは行渡つてをらぬ)は市會議長たり商工會の會長たる田島勝太郎氏が商工會に對して

職工さんは
イクラ取る
何んでも高い高い八幡に

で日給三圓も取る者もあるが之等は數ふる程しかない多くは五十錢乃至一圓、一圓五十錢の程度である。之に三割の加給があり二割乃至三割の増加がつき八割乃至十五

かした八幡製鐵所の職工は

◇平均

して他地方の製鐵に比し劣つて居ると云ふ事をされ位の收入があるか調べて見ると年功を經た熟練工

◇物價

引揚の暗示を與へるからだと評せられて居る。

合併促進の黑幕
對馬運輸對九州汽船
藤野派倉成派の裏をかく總會席上波瀾洶湧せんか

◇由來

對州と九州本土との海上交通は對馬運輸會社の專有たりしが昨年十月長崎市の九州汽船株式會社が對州丸を就航せしめてより自然競爭の状態となつた十二月九州汽船取締役支配人林松造氏は對馬運輸社長[illegible]

◇藤野

氏と妥協し同氏の持株五千株中二千五百株を買受くべく契約せり越えて同廿五日株主總會に於て取締役倉成鋼作氏一派の反對は藤野氏が他重役に無斷にて過半の株を賣たる行爲を憤らして總會の席上で

◇論争

し會社解散の決議を提出に及んだ元來此の間に於ては甚だ込入りたる事情伏在し居るも松造(現九州汽船取締役支配人)取

◇倉成

派に於ても渠々汽船會社を設りたると云ふ論爭の焦點は所謂

◇絶對

多數を占むる藤野派の勝利に歸したのである

本社は今暫時發表を見合す可く藤野氏が秘密裡に事を進捗したるも此事情に依れると聞く亦無斷にて會社と假契約さへなせるを以て藤野派は自恣上反對派の裏をかきたるものと稱せられてゐる會社解散の決議は八千株中藤野派五千株、倉成派千五六百株、其他四五百株

なりと注目されて

る熱情せる勞働者の集團は容易に解散せず

る事になるらしく

人心の緩和をなさば勞働爭議の解決に對し甚だ大ならん

[illegible]が如何なる決答を[illegible]するか問題は之を第二の動機として總會の決議に基き更に惡化を示すものと思はれる